

「つぼみ」細目(三)

自第十一開至第十五開

第十一開 明治二十四年一月二十六日発売

特別会告

会説

耳の文学

花壇

歳暮の感

ニユートンの話

女子の分を論じて文学の事に及ぶ

同志社女学校本科一年生

毛糸編物を注文する文

梅花女学校本科一年生

庭前の梅を観る

鳥取英和女学校四年生

観楓之記

美軒小史

一〇三

三〇五

五〇六

六〇九

一〇〇

一〇〇

山内祥史

同志社女学校予備科三年生
女学生の世に対する働

一一〇二

梅花女学校本科二年三期

一二〇三

皇子と大将の話 山陽英和女学校生

一三〇四

冬の月を観る

同志社女学校予備科三年生

一四〇五

歳暮感を記す

鳥取英和女学校四年生

一五〇六

秋夜聴笛記 梅花女学校本科四年生

一六〇七

歳暮感を記す 鳥取女学校三年生

一七〇八

冬の月を観る

同志社女学校予備科三年生

一七〇九

雨中楼に登の記

梅花女学校本科二年生

一八〇一〇

瓶梅

鳥取女学校二年生

一九〇二

柔能く剛に克つの説

名苑

梅花女学校本科一年生

二〇〇二一

女学界の大勢

大阪

本間重慶

二一〇二三

家庭教育(承九開)

小川はま

二四〇二八

新年を迎ふ

堀口北郊

二八〇二九

説林

故新嶋先生の書翰

K.M.生

二九〇三一

英文学講義

酒井煙霞

三一〇三四

芳山紀行

豪遊子

三四〇三八

矮人エスキモー族の生況

フルムーン記

三八〇四一

スウイスの美術

香子

四一〇四一

海外彙報

在船場 煙霞樵夫

四二〇四三

遺芳

星学者マリア、ミツチエル嬢伝略 松雪学人訳

四三〇四六

数理

本紙第六開数学問題解説

四六〇四七

同第七開数学問題解説

四七〇四九

文華

詩歌数篇 三木真砂子・今川新子・柴田静栄・

永井盈進・村上駒尾子・高橋とよ子・菊

地はる子・三木まさ子・川野松山・堀口

北郊・望月梧楼

四九〇五九

記要

同盟校卒業生人名一同志社女学校の部、鳥取女

学校の職員、増野悦興君の来書

つばみ附録新年懸賞問題答案

五九〇六〇

第十二開 明治二十四年二月二十日発行

入会報告、会告

会説

教育に関する勸語と基督教主義の学校

花壇

深夜の感

松山女学校生

北野梅を観る記

同志社女学校本科二年生

友を慕ふ

梅花女学校高等科生

学校に在りて故郷の母の病氣を問ふ

山陽英和女学校生

一月廿三日述懐

同志社女学校本科一年生

観寒梅記

梅花女学校本科一年生

一日の経歴

松山女学校生

故校長の一週忌を迎ふ

同志社女学校本科一年生

鶯の説

梅花女学校本科一年生

立春

山陽英和女学校生

美軒小史の耳の文学に付て一言を質す

同志社女学校本科一年生

勉勵

梅花女学校本科一年生

新年之感 同志社女学校本科三年生

同朋合写の真影に題す

梅花女学校本科二年生

名宛

女子教育の必要を論ず

大阪 小川はま子

二七〇三二

女子教育に対する余が卓見

鳥取 井伊松藏

三二〇三六

説林

英文学講義(承前)

酒井煙霞

三六〇四一

作文は読書にあり

室 鳩巢

四一〇四三

学理的の傾智

四三〇四四

兄弟の愛

四四〇四四

学園

ふじ谷

四四〇四五

南留別志抜粹

四四〇四五

遺芳

星学者マリア、ミツチエル嬢伝略(承前)

四五〇四九

文華

詩歌数十篇 今川新子・吉垣 要・根岸虎太・

四九〇五四

西山茂子・三木真砂子・津枝静子・高橋

とよ子・児島寿代子・奥田譲子・玉手通

尾子・大島栄子・吉田数子・堀口北郊

四九〇五四

記要

宮川敏嬢の書翰、婦人友愛会、女文会の第二回

集会、第十六回興文会、同志社文学会雑誌、ハ

ンナギユリキ女の書状、大阪婦人教育会発会式、

同盟諸校卒業生の姓名―同志社女学校の部(承

前)

五四〇六〇

広告

同志社文学会雑誌第三拾九号 等

第十三關 明治二十四年三月二十日発行

会説

女文会第二回集會に就て

花壇

三省

神戸英和女学校本科二年生 中村 淳

貧民の子弟を教養する目的を相談する文

梅花女学校本科一年生

YN姉の耳の文学の駁論を読む

同志社女学校本科一年生

折にふれて 松山女学校生 S. K.

金魚 神戸英和女学校予科二年生 井上ゆき

我国従来の宗教を改良す可の時なり 梅花女学校本科二年生 一三〇一六

花見に友を招く文 同志社女学校予備科一年生 一六〇一七

女子教育の変動に就て偶感を述ぶ 松山女学校生 一七〇二一

油断大敵

神戸英和女学校本科一年生 安永 菊

海外に在る親友に与ふ書 梅花女学校本科二年生 二二〇二三

津保美第九号を読み猿丸太夫に一言す 同志社女学校本科三年生 S. O.

学友の落第を慰むる文 松山女学校予備科生 二六〇二七

音楽学校を隆盛にすべきの論

神戸英和女学校本科三年生 佐野とく

早鷺の説 梅花女学校本科二年生

北野観梅 同志社女学校本科一年生

編物して感あり 松山女学校生

北野に梅を観て新島先生を懐ふ

同志社女学校本科三年生

一夕の感 松山女学校生

梅花を知人に贈る文

同志社女学校予備科三年生

忍耐は幸福の母

梅花女学校本科一年生

名宛

当今女学生実際の学問 備後尾の道

女子教育の必要を論ず(承前) 小川はま子

説林 弘暁松嶺に登る

書簡 在諏訪山下 雲外生

読みて為になる書籍 星野生

家事の整理 グラント夫人手記 M.M.反訳

作文は読書にあり(承前) 五一〇五三

数理

問題

第八開問題解説

寄書

美軒小史の耳の文学を駁す

文華

R.H.生

五五〇五七

詩歌十数篇 ロングフェロー作、素軒学人訳・

あや女・根岸虎太・西山茂子・永井盈進・

三木真砂子・高橋とよ子・白石りん子・

川野松山

記要

女文会第二回集会時日及問題、オルチン、ソー

ル両氏の帰米、同盟校卒業生人名(承前)―神戸

英和女学校の部

会告、広告、女文会々則摘要

会告、広告

第十四開 明治二十四年四月二十二日発兌

会説

修辞学修飾適用の功益

詠歌の葉

花壇

愛春之説 同志社女学校本科一年生

何を以て最上の楽となす

試験の成績を友人に報する文

神戸英和女学校予備科一年生

野遊 鳥取女学校生

節儉論 山陽英和女学校生

桜見に招かれし礼状

同志社女学校予備科二年生

口は禍の門 梅花女学校本科一年生

五八〇六一

六二〇六四

六二〇六四

六二〇六四

六二〇六四

六二〇六四

六二〇六四

六二〇六四

六二〇六四

六二〇六四

六二〇六四

六二〇六四

六二〇六四

六二〇六四

六二〇六四

六二〇六四

六二〇六四

六二〇六四

六二〇六四

六二〇六四

六二〇六四

六二〇六四

六二〇六四

六二〇六四

六二〇六四

六二〇六四

某姉の墓に謁す

神戸英和女学校本科四年生

K. K.

二四〇二五

野遊

鳥取女学校生

岡垣とし子

二五〇二六

余が母の墓

山陽英和女学校

中堀徳子

二六〇二八

友人の退学を惜んで其父に送る文

同志社女学校本科一年生

富田まき

二九〇三〇

人の東京に行を送る文

梅花女学校本科三年生

山脇よね

三〇〇三一

隣を扒ぶべきの説

神戸英和女学校本科一年生

成瀬かめ

三一〇三二

野辺

鳥取女学校生

村部よし子

三二〇三三

S. K. 姉の好意

同志社女学校本科一年生

Y. N.

三三〇三四

桃山に遊ぶ記

梅花女学校本科一年生

村上政代

三四〇三五

春休に大和巡りを誘ふ文

神戸英和女学校予備科二年生

鈴木幸重

三五〇三六

鹿を逐ふものは大山を見ざるの説

梅花女学校本科二年生

磯田かつ

三六〇三七

全国基督教主義女学校の諸姉妹に寄する書

熊本女学校生徒

渡辺もと

三七〇四二

名苑

女学に就て感懐を述ぶ

在新潟 常盤木千代子

四二〇四八

説林

井伊松蔵

四八〇五二

関西及九州の女学界―同志社女学校・梅花女学校

五二〇五四

此夫にして此妻あり

遺芳

星学者マリア、ミツチエル嬢略伝(承第十二開)

五四〇五五

文華

長歌二編 熊本女学校某・今川新子

五六〇五八

記要

女文会第二回集會記事、婦人教育雜誌

五八〇六二

女文会々則摘要

女文会々則摘要

六二〇六四

第十五開

明治二十四年五月二十二日発兌

女文会々則摘要

会説

卒業生諸君に告ぐ

詠歌の葉(承前)

花壇

「つばみ」第十四開を読んで感あり

怠慢なる友人に忠告する文

養生論

東山のそとあるき

焦螟説

乳母の愛

東山春望

遊学する友に遺す文

遺芳

文華

記要

女文会々則摘要

第十五開

明治二十四年五月二十二日発兌

女文会々則摘要

会説

卒業生諸君に告ぐ

一〇四

四〇一一

一七〇一四

一四〇一五

一五〇一七

一七〇一八

一八〇一九

一九〇二〇

二〇〇二二

二一〇二三

二二〇二四

二三〇二五

二四〇二六

二五〇二七

二六〇二八

二七〇二九

二八〇三〇

二九〇三一

三〇〇三二

三一〇三三

三二〇三四

三三〇三五

三四〇三六

三五〇三七

三六〇三八

三七〇三九

三八〇四〇

三九〇四一

四〇〇四二

四一〇四三

梅花女学校本科一年生

二三

同窓の病を報する文

鳥取英和女学校生

二三〇二四

偶記

松山女学校本科二年生

二四〇二五

己を責む

同志社女学校本科一年生

二五〇二六

学問の集合点

梅花女学校本科三年生

二六〇二八

名苑

女子の学問

北郊散史

二八〇三〇

女子教育の必要を論ず(承第十三開)

小川はま子

三〇〇三五

四条畷に遊べる事を記す

川野松山

三五〇三七

説林

関西及九州の女学界(つゞき)―仏教的女学校・

神戸英和女学校・九州各地の女学校

西南生

三七〇四二

女子と数学

四二〇四三

遺芳

星学者マリア、ミツチエル嬢略伝

四三〇四七

数理

自分免許の弊に付て

菅原婁文

四七〇四九

問題及解答数件

四九〇五二

文華

詩歌数十首 緒方寿子・村山小梅女・永井盈進・

荒木やす子・堀口北郊・梧楼塵仙

記要

女文会第二回集会記事(承前)、梅花女学校運動

会、同盟校卒業生人名―神戸英和女学校の部

五四〇六〇

会告